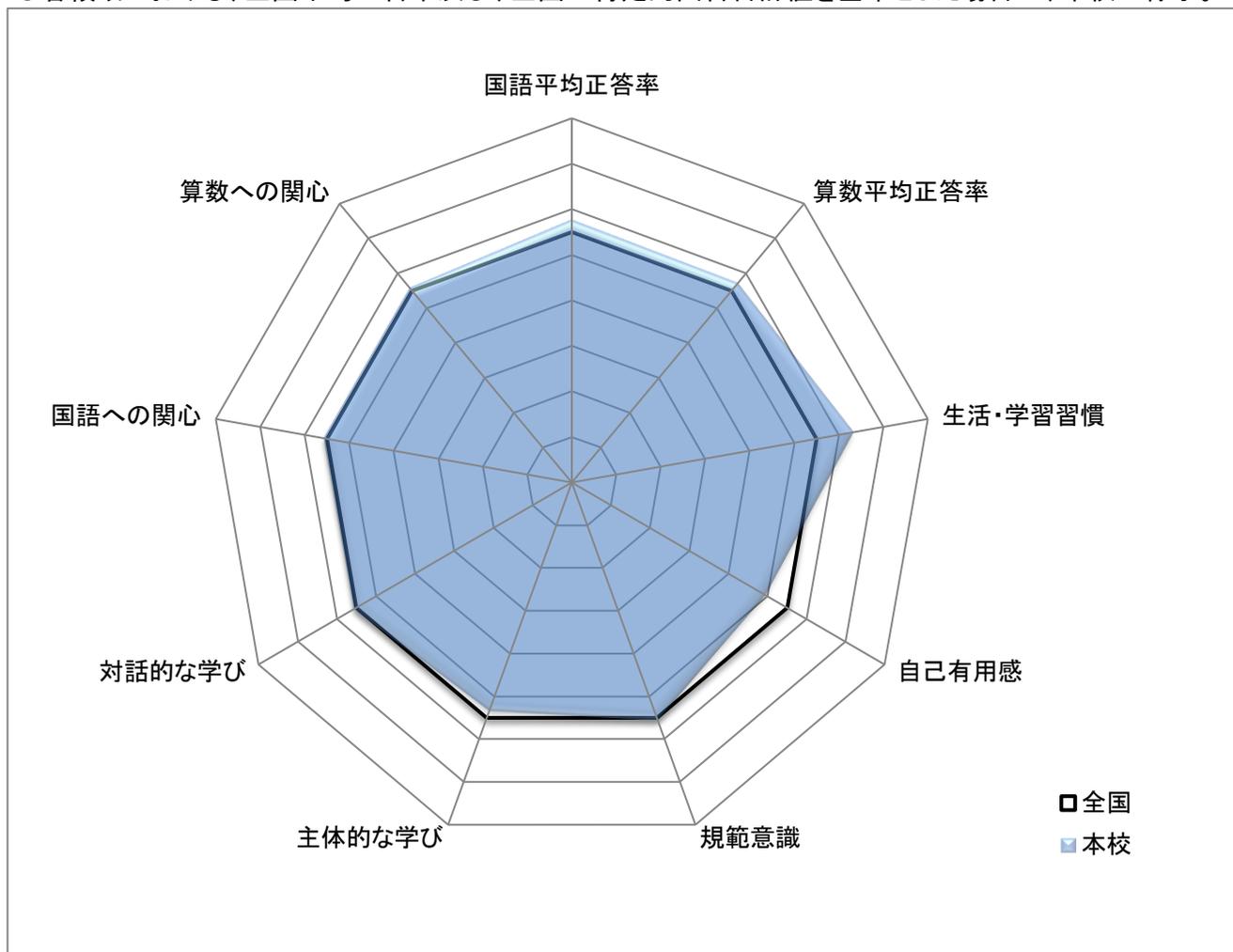


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語、算数ともに、基本的な知識が確実に身に付いている。
- ・基本的な知識を活用した問題に対応する力も付いてきている。
- ・生活・学習習慣では、家庭でのスマートフォンやタブレット使用の約束を守れている児童が全国平均を大きく上回っている。
- ・自分のよさや将来に向けた夢や目標をもたせることについては、家庭の力も得えながら継続して指導する必要がある。

《授業改善のポイント》

【国語】

- ・図書室の有効活用を進め、読書の時間を通して日本語の文章に触れる機会を増やす。
- ・パンフレットやポスターを書く単元では、実物を見せ、どんな内容が書かれているかを比較し、情報を捉える指導を行う。

【算数】

- ・問題文から分かっていることと問われていることを整理し、具体的な場面や形を想像できるように文章を解説するようにする。図形の性質の本質や作業方法などを理解し、解決していく活動を取り入れるようにする。

【全教科に関わること】

- ・児童の疑問を活かし、調べ、まとめ、発表する学習を行う。その中で、どのように発表したら、相手に伝わるのかを考えさせる場面を設定する。
- ・学校行事やたてわり班活動などで、児童が自主的に活動できる場面を設定する。

《チャートの特徴》

- ・国語、算数ともに、「学習への関心」「平均正答率」ともに全国平均を上回り、特に算数の測定の問題では顕著に上回っている。
- ・「対話的な学び」「主体的な学び」も前回の数値を大きく上回り、日常の学習の姿が反映されているが、児童の偏りがまだ見られる。
- ・「生活・学習習慣」は全国平均を大幅に上回り、家庭の協力も得て、朝ごはんをしっかりと取り、起床時刻や就寝時刻を守って生活していることが分かる。
- ・「規範意識」「自己有用感」も前回の数値を上回っているが、きまりを守れているという数値が高い一方で、自分のよいところや自分の将来の夢を肯定的に捉えている児童がまだ少ない。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・「規則正しい生活習慣」を身に付けることの大切さを継続して発信する。
- ・家庭でも、日々の目標や将来のことについて話す機会をもつよう促す。
- ・キャリア教育の一環として、児童とともに保護者にも講師を招いての話を聞く場を設ける。